

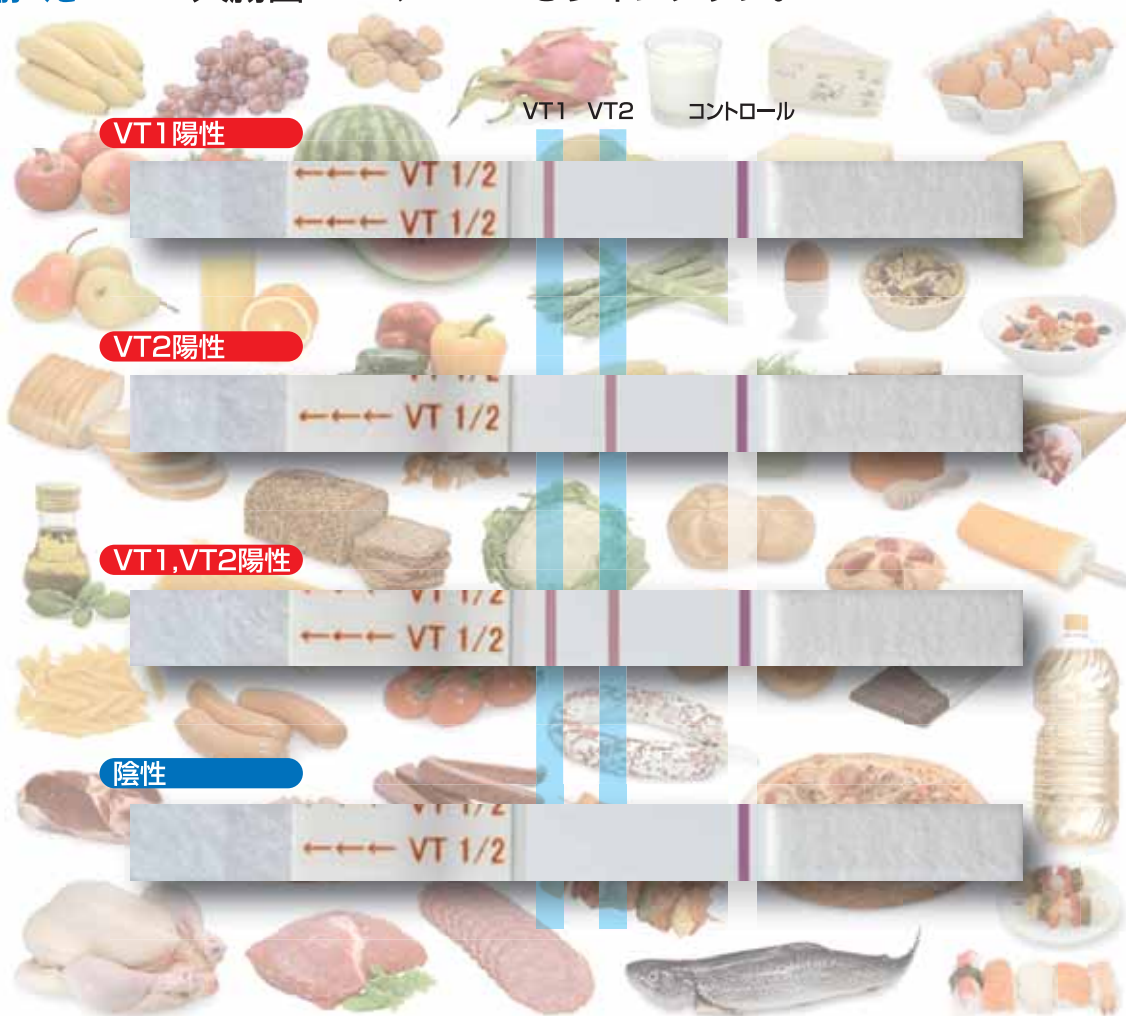
NISSUI

食中毒原因菌簡易迅速試薬

NHイムノクロマトシリーズ

New VT1/2, 0157, 026, 0111, サルモネラ

- 簡単操作** …… 増菌培養液をテストプレートに滴下するだけの簡単操作。
- 短時間** …… 結果判定まで約15分。培養法よりも早く結果が得られます。
- 低コスト** …… 既存のイムノクロマト法に比べ、検査コストを削減できます。
- 品揃え** …… 大腸菌026、0111もラインナップ。

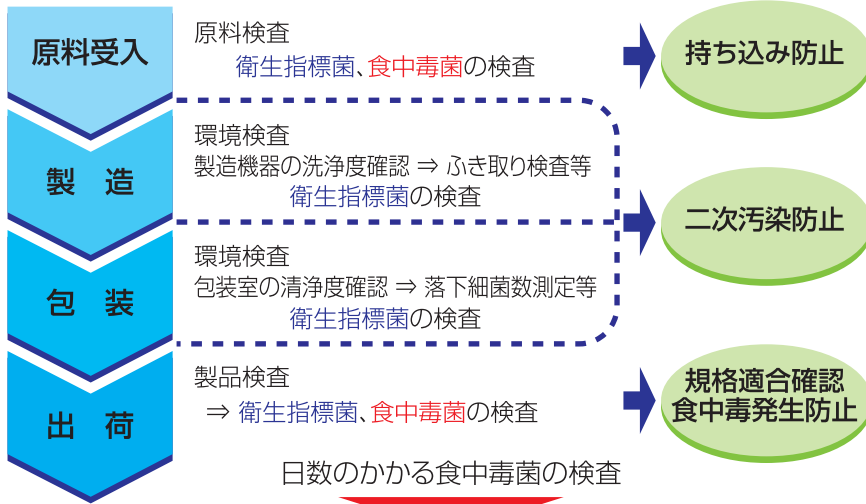


用途	製品名	製品コード	包装	希望納入価格
ベロ毒素(VT1、VT2)検出用	NHイムノクロマト VT1/2	06690	20回用	14,000円
大腸菌0157検出用	NHイムノクロマト 0157	06686	20回用	10,000円
大腸菌026検出用	NHイムノクロマト 026	06688	20回用	10,000円
大腸菌0111検出用	NHイムノクロマト 0111	06689	20回用	10,000円
サルモネラ(S.Enteritidis)検出用	NHイムノクロマト サルモネラ	06687	20回用	10,000円



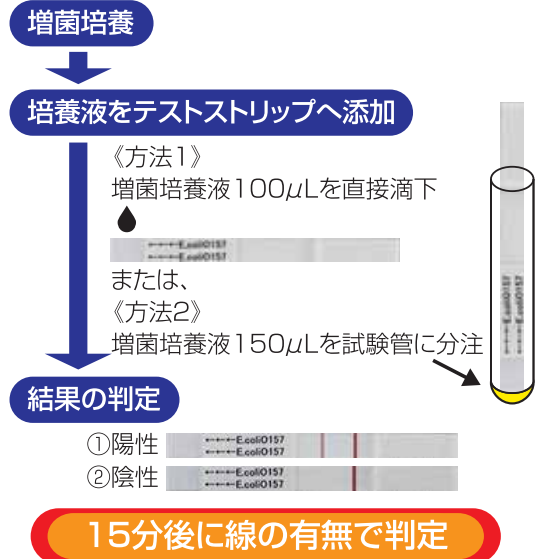
NISSUI PHARMACEUTICAL CO., LTD.

食品製造工程におけるイムノクロマト法の適用



原料受入・出荷時の食中毒菌検査に「簡易迅速検査法」がおすすめ

操作手順概要



培養法との検査手順比較例(腸管出血性大腸菌の場合)

	イムノクロマト法	培養法
1日目	検体の前処理(秤量、スタッキング)	ノボビオシン加mEC培地による増菌培養
2日目	NHイムノクロマトによる0157、026、0111の試験 同時にNHイムノクロマトによるベロ毒素確認試験	分離培地の調製 分離培地への塗抹 分離培地上での判定
3日目		コロニーを釣菌し純培養 コロニーの血清型確認(0157、026、0111の確認)、生化学性状の確認
4日目		ベロ毒素産生確認

短時間で判定可能

手間削減

誰でもできる

腸管出血性大腸菌について

腸管出血性大腸菌感染症における血清型検出頻度

	症例数	0157	026	0111	その他
2006年	3,922例	68.6%	22.1%	2.8%	6.5%
2007年	4,617例	74.3%	11.5%	5.5%	8.7%
2008年	4,321例	64.0%	21.2%	3.9%	10.9%

感染症情報センターホームページより抜粋

腸管出血性大腸菌の食中毒発生状況および感染症法届出数

菌名	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
食中毒事件数	18件	24件	24件	25件	17件
食中毒患者数	70名	105名	179名	928名	115名
感染症法届出数	3,764名	3,589名	3,922名	4,617名	4,321名

厚生労働省統計報告、感染症情報センターホームページより抜粋

腸管出血性大腸菌には、複数の血清型が存在し、多い順に0157、026、0111となっています。

0157、026、0111の3種で、腸管出血性大腸菌の約90%を占めています。

腸管出血性大腸菌は、食中毒事件数や患者数に比べ、感染症法届出数が多くなっています。

症状を示さない感染者(無症状キャリアー)が多く、二次感染発生の可能性が高いと推測されます。